

令和4年度第1回地域包括支援センター運営協議会会議録

○ 日 時 令和4年12月21日（水） 午後2時～午後3時

○ 場 所 宇都宮市総合コミュニティセンター 大集会室

○ 出席者 【委 員】

村井委員，北澤委員，小林委員，湯澤委員，福田委員，
小島委員，平手委員，小野委員，山田委員
＜欠席：塩澤委員，大山委員，釘持委員＞

【事務局】

高齢福祉課長，高齢福祉課主幹（介護保険担当），高齢福祉課長補佐
高齢福祉課相談支援グループ係長，専任，主事
高齢福祉課地域包括ケア推進室長
保健福祉総務課長
保健福祉総務課地域共生企画グループ係長，総括

○ 公 開 傍聴者 なし

○ 会議経過

1 開 会

2 議 事

(1) 報告事項

- ・ 重層的支援体制整備事業について 【資料1】【資料2】【資料3】

○ 発言要旨

(1) 報告事項

- ・ 重層的支援体制整備事業について 【資料1】【資料2】【資料3】

＜事務局資料説明＞

村井委員

地域包括支援センターは、今でも相当忙しい。高齢者宅へ訪問すると、複合的なケースを見つけてしまうという場合もある。

複合的な相談を受けられるツールを整備してもらおう。そんな時が来たと感じている。Zoomを使ったケア会議の実施などやらないとブレイクスルーが生まれない。

小野委員

国が実施したアンケート結果では地域包括支援センター業務の中でも総合相談業務が

非常に大変だという結果が出ている。

これまでの対象者が高齢者だけだったが、80代の認知症と50代の引きこもりの8050問題にも見て見ぬふりはできなくなる。

直接的な支援をそのまま地域包括支援センターがやれというものではなく、つなぎ先をきちんと確保し、ケースをつなぐことが重要。

市町村の体制整備が大事になってくる。マニュアルを作ることに加え、ネットワークをきちんとすることで、地域包括支援センターの不安や心配を解消していく必要がある。

人材確保の面では、ソーシャルワークが重要になってくる。地域福祉学会 原田 正樹さんの言葉、「重層は地域共生社会を勧めていくためのエンジン」コミュニティソーシャルワークをしていくことである。特に社会福祉士をしっかりと配置する。包括の負担軽減になるのではないかな。

国や全国社会福祉士会、栃木県でも研修を実施しているので、そういった研修を紹介して、関係機関にも参加してもらおうのがいいのではないかな。

村井委員

重層的支援体制においては、社会福祉士が肝になる。地域包括支援センターに2人配置してもいいのではないかな。雇用体系についても検討してもらえると良い。

地域包括支援センターのケースの抱え込みにも注意する必要がある。ケースを評価して、次のつなぎ先に渡せるような仕組みづくりをしていくことが望ましい。

つなぎ先もしっかり決めることが大事。関係機関は、アドバイスはできるけど、受け取ってはくれないということにならないように。

平手委員

宇都宮市社会福祉協議会では、地域包括支援センターの運営を2カ所受託している。今後の在り方について現場の声を聞いてみた。

まだまだ人材育成はこれから（コミュニティソーシャルワーカー）。地域包括支援センターが共生型に移行するにあたっての課題として、介護ケアプランの業務が増えていることが挙げられる。

違う担い手に頼める業務の可能性があるのかも考えていかなければならない。

また、重層的支援体制がマニュアル通りに進むのかも難しい。受け入れが難しい場合の調整に困ってしまうのではないかな。そのためにも、行政には伴走的な支援のネットワーク作りをお願いしたい。

担い手の整理、行政、社協、包括の連携を強化していく必要がある。

村井委員

単一の問題でないことも多いので、マニュアル作成は難しいのではないかな。

「このケースはどういう課題があってどういう着地点に至ったか」というケース共有が大事なのではないかなと思う。

事例を積み重ねながら主任介護支援専門員、地域包括支援センターは解決するツールを増やしている。マニュアルも大切だが、同時にケースの共有機能の検討をお願いしたい。

コミュニティソーシャルワーカーの育成も大事だと思っている。宇都宮市社会福祉協議

会にも期待している。

地域を取組とのマッチングもなかなか難しい。フォーマル、インフォーマルの違いもある。インフォーマルは曖昧なので。地域のことをよくわかっている人でないとマッチングできない。社会資源マップを参考にしながら、地域を取組を上手く見つけてつなげていく。

フォーマルな社会資源のリストはこれまで作った。宇都宮市ではインフォーマルなものも取り入れようとしている。できればいいのではないかな。

福田委員

高齢者の困りごとは、地域においては地域包括支援センターとの結びつきで解決しているところが多い。地域に目を向けると第2層協議体は地域でやっていくのも難しい面もある。地域包括支援センターが中心となってやらないと進んでいけない部分もある。事業者も地域の方に目を向けてやっていけばいい。地域包括支援センターに事業者と地域の仲を取り持っていただければ、地域の力が加わり、地域包括支援センターの負担少しは減るのではないかな。

村井委員

事業者も関わりを持てると期待でき、手伝いしやすくなるということですね。

どういう風にもっていけば地域の事業者が地域包括支援センターの後方支援をできるのか。

福田委員

西原地区の連合自治会長である。

アンケートを取ったところ、高齢者の草むしりしてほしい人と手伝ってもいいよという人のマッチングが上手くいった。

地域包括支援センターが仲立ちしたのと、地域コーディネーターがいるのでその方で、地域の課題を吸い上げて、ボランティアに流すという結びつきをやっている。

包括の知識、経験を生かすとともに、コーディネーターに結び付けてほしいと考えている。

村井委員

地域の人たちが動くタイミングで上手く包括が旗を振る必要がある。その必要性を認識しているか。

地域を育てるという役割。

地域包括支援センターの機能強化として地域をどう使いこなすか。そういう視点を強く持ってもらうことも大事である。

草むしりは入り口で、他の課題もあるはず。なんか見つけちゃう可能性もある。

そこから何をみつけるのか。どう支援につなげていくのか。

福田委員

草むしりだけじゃなくて、電気を変えてほしいとのこともあった。他の広がりもでてくる。

困りごとを見つけることも大切。民生委員が見つけて包括に伝えて、地域にそれをおろしてもらえると。

包括が関わっていくことでアンテナが高まる。

村井委員

情報共有でストップがかかる。出すところ、出さないところが地域の判断が難しい。

行政としても情報共有の面でバックアップが必要なのではないかな。

要支援者マップの共有とかも重要なのではないかな。

湯澤委員

包括で働いていた身なので、包括の肩を持ちたい。

包括の感じ方としては、旗降っても踊ってもらえない、見てくれないという感じもある。

今までも複雑化・複合化した問題も入っていた。支援を必要としている人は声をあげない、

情報が入ってくるのは民生委員のルート多い。ひとり暮らし、引きこもりとか。

綱渡りのだが、民生委員と複合化複雑化した世帯にアウトリーチをかけたりしたこともある。

訪問の先、別の機関へのつながりはハードルが高く、社会福祉士の能力とモチベーションに頼ってしまい、つながらないことも多い。なんとなく見守っている。

整備事業の中で、高齢のことしか包括は上手くできないのではないかなと思う。

支援会議にかけられることにより負担が軽くなる代わりに、あらゆる世代の相談を受けるとのことかと。

支援会議にかかったあとも関わり続けるということか。

全体の業務量と質が見えてこない、包括の予防プラン、総合相談、地域づくりでいっぱいいっぱいなか厳しいものがある。

村井委員

人とお金をどれだけ包括に手当できるのかは大事ではある。

包括がいったん手を放すというわけではないと心配されてるんですかね。

湯澤委員

とても心配。

包括も単一で解決しようと思っていない。

連携先をしっかりとつくってほしい。断らない体制。

村井委員

行政が蓋をしないようにお願いしたいと思う。

ポジティブにやれることをやっていくという方にお願いしたい。

湯澤委員

連携しなければならないという認識づくりを行政にお願いしたい。

村井委員

三師会にも医療介護連携にご協力いただいている。PSW も連携してもらえそうである。専門職も連携に関わってくれるような仕組みづくりは勧められそうである。

湯澤委員

3 職種以外も配置してほしいと思っている。精神保健福祉士や心理士との協働もあるのではないかと考えている。

村井委員

いろんな専門職、地域の力を引き込んでケア会議をしていく。少数の包括職員を孤軍奮闘させないことがコンセプトだと思っている。地域みんなで支える。

山田委員

介護で困ったことが有ったら相談を受けている。

民生委員さんが地域包括に頼んだら 2 か月先に訪問だった。包括支援センターは忙しいんだなと思った。

包括によってはいろいろあるが、研修をもう少しやって包括間のレベルを合わせていく必要があるなと思っている。

新しいことではなく、これまでの取組を強化するという理解でいいのだろうか。はい。

家族介護教室について、あるところはお葬式屋さんをよんで終活のことで、遺書のこと。理学療法士さんと呼んで、転ばないようにする。人生会議について。

包括は頑張っているなと思っている。

小島委員

地域包括支援センターはよくわからない部分もある。民生委員が一番包括を知っている。民生委員が困ると包括にお願いするということは見ている。

地元の人は包括がどれだけ大変かわからない。

39 の自治会、まち協があって、第 2 層を 39 地区に広げようとしている。

まち協のが第 2 層をやっている方が多い。

東地区も第 2 層を一生懸命やっている。高齢福祉課、社協、包括も入ってやってもらっている。

昔は連携会議をやっていた気がする。5・6 年それはやっていないので、今は自分の立場ではわからない。一緒にやっているという気はない。

村井委員

民生委員とのパイプは太い。それ以外は太くない？

小島委員

連合自治会の三役会有的时候に、包括の関係を聞いてみたいと思う。
もっと包括と関係を持つ、応援をするという話をする必要がある。
こちらからアクションを起こしたいと思う。自治会、まち協と相談したいと思う。

村井委員

みんなで地域の課題を支援する土壌を醸成していく。

小林委員

宇都宮地区支部として、看護職3000人ほどいる。研修やまちの保健室をやっている。
済生会宇都宮病院に勤務しており、看護職がどうやって重層に関われるかを考えていた。
顔の見える形での連携が大事。連携ステーションで少しずつ出来上がりつつある。
さまざまな困りごと、地域の課題にたいして何ができるのかはわからない。
重層について市民に理解してもらおう場があるといいのではないかな。PRイベント等、浸透
させていただくこと。
災害に関することを自治会で、やっていた。災害に関する訓練をやっていた。パイプと
いうところでは、介入していればいいのか。

人材育成の面では、包括さんが来てくれる研修もある。1月に地域包括支援センターも
参加する交流会を企画している。包括の方に逆に御意見いただきたい。

村井委員

どうでしょうかではない。病気を理解して、受容することも大事。それに応じた、医療・
介護。
地域の課題が小さくなる方向に連携していければ。

北澤委員

難しい問題だなと思っている。毎日診療をしていて、家族のことを相談されることが多
い。包括や民生委員に聞いてみてくださいねとしかいえない。認知症の方は家族の方が付
き添いにきてくれる。難しい問題がたくさんある。歯科医師会に帰っていろいろ相談した
いと思う。

村井委員

理事をやっていると地域の仕事に疎いところはある。まずは知ることが大事だなと思っ
ている。
気づかずに仕事が済んでいる面があるので。

災害時のマップの話。災害時要援護者名簿が古い。
災害訓練に活用できないものになっている。情報のアップデートと事前の訓練を目的に
盛り込んでほしい。

いざという時に機能できるように。訓練が大事なので。

事務局

年に1回程度アップデートをしている。

村井委員

災害時の対応についても必ず包括の機能強化につながる。

市民への周知方法についてはどうか。

小林委員

自分の経験をどうやって生かしていくかということを考える。そういう人は意外とい
のではないか。

自分にできることの意識醸成。

イベントでモデルケースを紹介するとか。

村井委員

広報うつのみやで紙面をさく。回覧板を利用する。

「あなたの力が必要」というような周知をするとか
どういう風にメッセージを送るか。

山田委員

家族介護教室で包括とはという冊子を配ったりしていた。

出てくる人は限られているので、本当に困っている人にはアプローチが難しい。
民生委員の定例会で、包括職員を紹介したりする。

村井委員

社会的弱者は情報が届きにくい。困っていることを発信できる人とそうでない人を見つ
けてくるアプローチは違ってくる。

小野委員

これまでの歴史、役割を踏まえると、CSWの配置とか社協さんの力が大きい。
国のほうでも、地域密着型でのブランチ、サブブランチ機能が進まれている。
事務局としてはどういう考えがあるのか。

事務局

検討していないのが現状である。
法改正等に伴い検討していく。

村井委員

失速しないようにやっていただきたい。